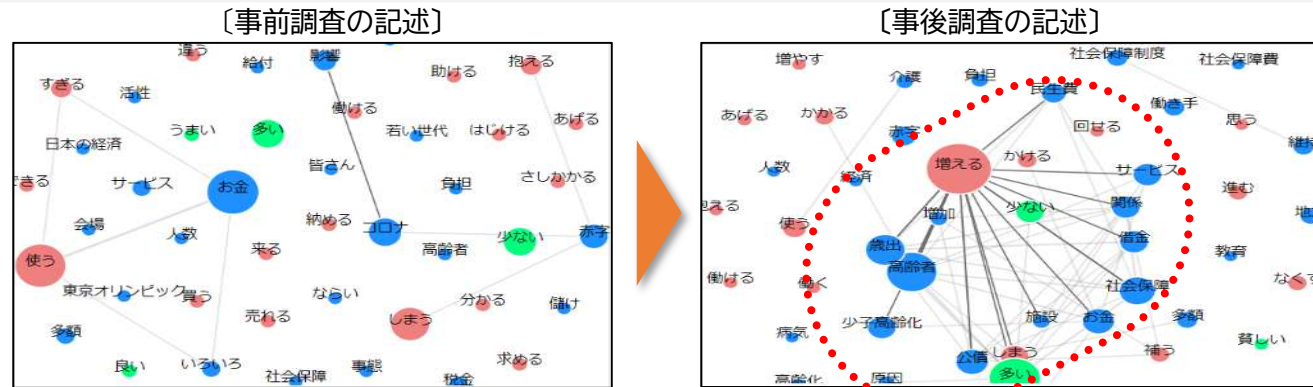


Ⅲ 実践の検証と分析

■テキストマイニングによる事前・事後の比較から

テキストマイニングを使って、事前・事後調査の記述を視覚化し、その変化を分析しました。【図3】はそのうちの共起ネットワークであり、記述文中で関連性のある用語が線で結ばれるとともに、出現頻度が多い用語は大きな円で表示されます。これを見ると、事後は「増える」を中心に用語が結びつき、事前と比べて用語同士の結びつきが増えていることが分かります。社会保障に関する用語を理解し、それらを筋道立てて記述していることを読み取ることができます。社会保障を自分自身にとって大切なこととして、その重要性を認識し、学習した知識を関連付けて設問に答えていると考えます。



【図3】共起ネットワークによる用語の共起関係（報告書 p.53）

■「考察する」「構想する」「表現する」の視点によるワークシート等の分析から

本研究における思考力、判断力、表現力等の捉えに基づき、「考察する」「構想する」「表現する」の3つの視点でワークシート等を分析しました。「考察する」「構想する」では、各項目において多くの生徒の能力の高まりが確認できました。「表現する」については、【表1】の結果を見ると、ほぼ全員が議論に必要な傾聴と相手を意識した説明ができていました。今後の課題として、自他の考えの比較、他者の考えを取り入れた解決策について具体性のある記述となるようにさらなる指導の工夫が必要と判断されます。

【表1】「表現（議論）する」の視点（報告書 p.56）

	相手の話を傾聴する	相手を意識して自分の考えを説明する	他者の考えと自分の考えを比較する	他者の考えの良いところを取り入れ、解決策を示す
第4時	31人/31人	30人/31人	23人/31人	18人/31人

Ⅳ 研究のまとめ

■研究の成果

- 単元を貫く問いとそれにつながる問いといった二段階の問いを立てることにより、生徒の問題意識を高め、主体的な学習につなげることができました。
- 単元全体や本時の学習内容を俯瞰する場面と、考えを交流・共有する場面を設定することにより、資料読み取りの技能を高め、知識を組み合わせる制度等の特徴や問題点をつかむ力につながりました。
- 「論証モデル」を用いて、自分の考えを表現することで、学習したことが整理されると同時に、他者を意識した表現ができる生徒が多く見られました。「論証モデル」を用いた生徒同士の交流を行ったことで、対立意見を考慮した記述が見られ、より多角的な思考となりました。

■今後に向けて

- 生徒が論拠をもって自分の考えを表現するためには、資料の読み取りや論証方法の理解が欠かせません。生徒の実態を把握し、指導方法を工夫する必要があります。
- ICTを活用することにより、生徒の考えや振り返りの記述を即時に共有することができ、さらに学習効果が増すと期待されます。

ご覧ください！

■ 研究報告書と補助資料は、下記の岩手県立総合教育センターのウェブページに掲載しています。
 ▶ <http://www1.iwate-ed.jp/kankou/kkenkyu/177cd/r03tyou.html> QRコード



研究主題

高等学校公民科「公共」における思考力、判断力、表現力等を育む授業の在り方に関する研究

－大項目B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の単元構想の工夫と学習活動の充実を通して－

【研究担当者】長期研修生 板澤 毅尚
 （所属校 岩手県立住田高等学校）
 【この研究に対する問い合わせ先】
 TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562
 E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

I はじめに

■新科目「公共」と高等学校公民科の課題

選挙権年齢や成年年齢の引き下げといった高校生を取り巻く社会状況が大きく変化するとともに、学習指導要領の改訂により、新科目「公共」が実施となります。公民科においては、「思考力、判断力、表現力等の育成の一層の充実」が課題の一つとされてきました。今回の改訂では、「社会的な見方・考え方」を働かせた思考力、判断力、表現力等の育成は、資質・能力の育成全体に関わるものとし、主体的・対話的な深い学びを通して育むこととしています。

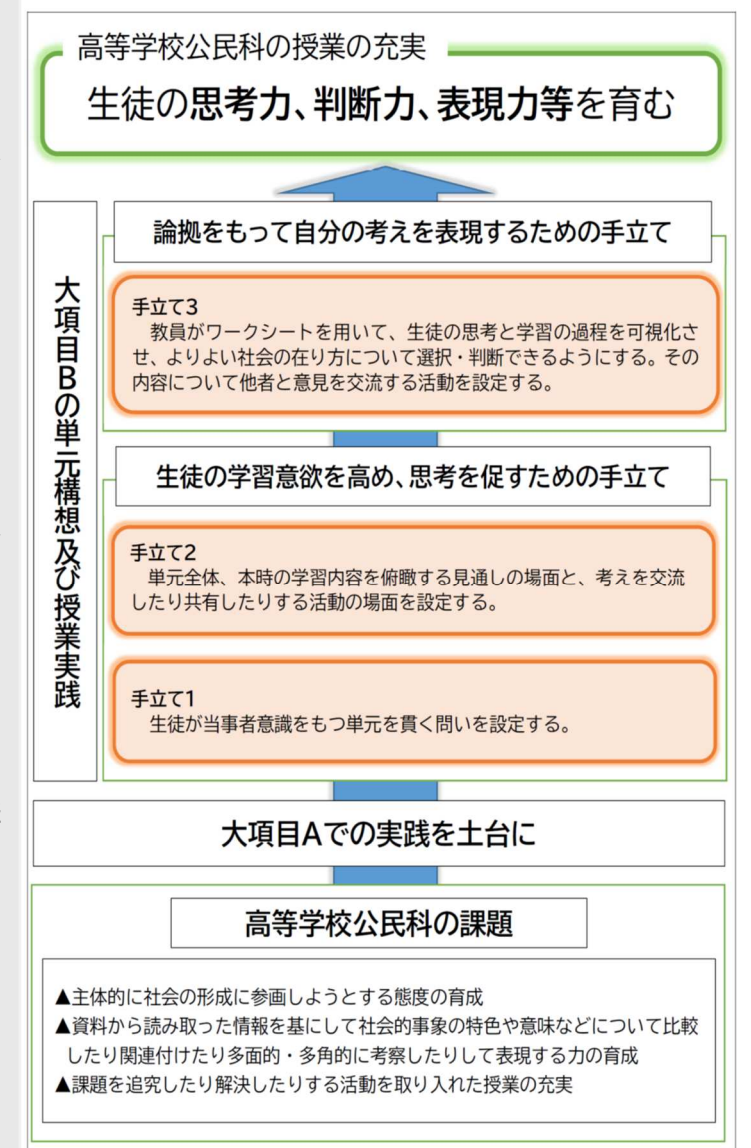
■本研究における思考力、判断力、表現力等の捉え

本研究が扱う大項目B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」では、現代社会の諸課題に関わる主題を設定し、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動（主題学習）を行います。そこでは、論拠をもって表現することが求められます。論拠をもって表現するためには、考察、構想、表現といった思考の過程が必要です。このことを踏まえ、本研究では、思考力、判断力、表現力等を、「人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、考察、構想したことを表現する力」と捉えました。

■本研究が目指すもの

そこで本研究では、生徒の実態に応じて「公共」における思考力、判断力、表現力等を育むため、問いの立て方の工夫、学習内容を見通す工夫、論拠をもって自分の考えを表現できるように思考を促す工夫の3つの手立てによる授業実践例を提示することを目指しました。

【研究構想図】



研究の目的

高等学校公民科の新科目「公共」において、生徒の実態に応じて単元及び授業の在り方を構想し、その実践を通して、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成する授業の充実に資する。

II 三つの手立てを用いた授業の実際

手立て1 生徒が当事者意識をもつ単元を貫く問いを設定する。

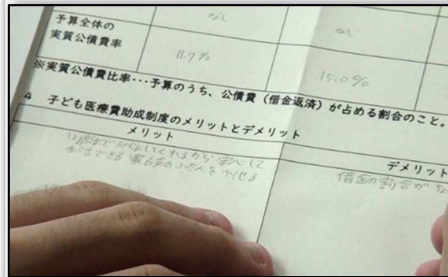
■手立てのポイント

右の①～③を踏まえ、生徒が主題に対して当事者意識をもって主体的に学べるように問いを構想しました。単元課題と各時間の学習課題がつながっていくようにしました。(報告書 p. 23)

問いを立てるにあたって考慮すべきこと

- ① 生徒の学習意欲を高め、思考を促すこと
- ② 高次の問いで単元を貫くこと
- ③ 価値判断や意思決定を求めるものであること

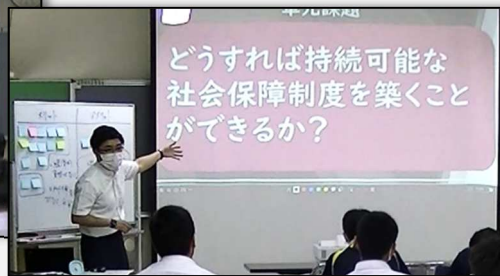
第1時 単元課題(単元を貫く問い)を設定するプロセス



身近な社会保障に関する制度のメリット・デメリットを考察



生徒の考えを分類・関連付け、制度のデメリットに着目



制度に対する疑問をもとに単元課題(単元を貫く問い)を設定

■単元課題ワークシート

第1時のまとめで単元課題(単元を貫く問い)に対する自分の考えを記入しました。第3時のまとめにおいて、単元の学びを経て自分の考えがどう変わったかを確認しました。

【単元課題に対するあなたの考え】		あなたの考え
知りたいこと、疑問に思うこと	調べたいこと	
なぜ借金が増えているのか。	借金をいくら増やしていいのか、借入したお金をどう使うのか。	日本は借金が増えているから、100か年か。

【図1】単元課題に対する自分の考えを記入したワークシート(第1時)(報告書 p. 30)

手立て2 単元全体、本時の学習内容を俯瞰する見通しの場面と、考えを交流したり共有したりする活動の場面を設定する。

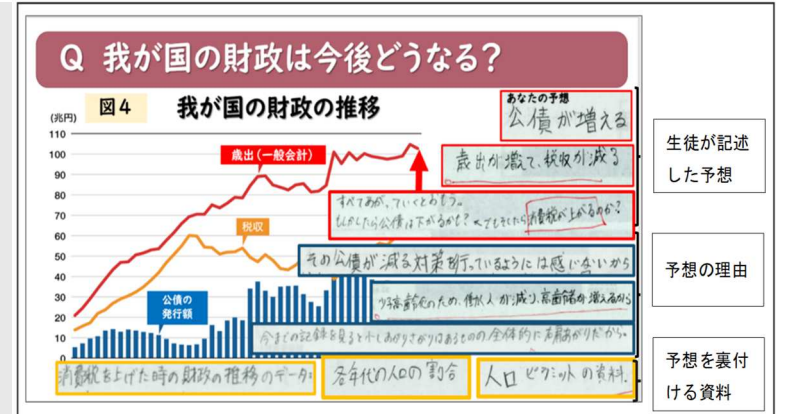
■手立てのポイント

学習のイメージをつかみ、理解が深まることで、思考を促すことをねらいとしました。

前時の生徒の疑問について共有したり交流したりする活動を通して、新たな視点を取り入れられるようにしました。そして、本時の学習につなげました。

■手立てを用いた場面

【図2】は第3時の導入において、前時の生徒の考えや意見、資料の読み取りを共有するために示したスライドです。他の生徒の意見に触れることで、新たな視点を取り入れ、思考を促すことにつながりました。



【図2】生徒の考えや意見を共有するために示したスライド(第3時の導入: 報告書 p. 48)

手立て3 教員がワークシートを用いて、生徒の思考と学習の過程を可視化させ、よりよい社会の在り方について選択・判断できるようにする。その内容について他者と意見を交流する活動を設定する。

■手立てのポイント

ワークシートを用いて、思考と学習の過程の可視化と意見の交流を行うことにより、学習したことが整理され、イメージしやすくなること、さらに相手を意識した表現ができるようになることをねらいとしました。

■手立てを用いた場面

第1時では、地域の社会保障に関する制度のメリット・デメリットを考察する取組を行い、単元課題を設定しました。その上で、第2時では、財政に関する学習を行い、財政の持続可能性について考えるために財政予想を立てる取組を行いました。第3時では、諸外国との比較を通して、「高福祉高負担」「低福祉低負担」について学習し、そのまとめとしてそれぞれのメリット・デメリットを考察しました。第4時では、どちらかの制度を選択し、自分の考えを「論証モデル」を用いて構想しました。そして、その考えを他の生徒と交流し、単元課題に対する自分の考え(結論)をまとめました。

第2時 資料を読み取り、財政予想を立てる(報告書 p. 34)

① あなたの予想	公債の発行額がどんどん増えると思う。
② 理由	公債の発行額が年々増えているのと、高齢者も増えているから。
③ どのような資料やデータがあると、自分の予想を裏付けることができますか?	高齢者の増加データ

第3時 「高福祉高負担」「低福祉低負担」のメリット・デメリットを考察する(報告書 p. 38)



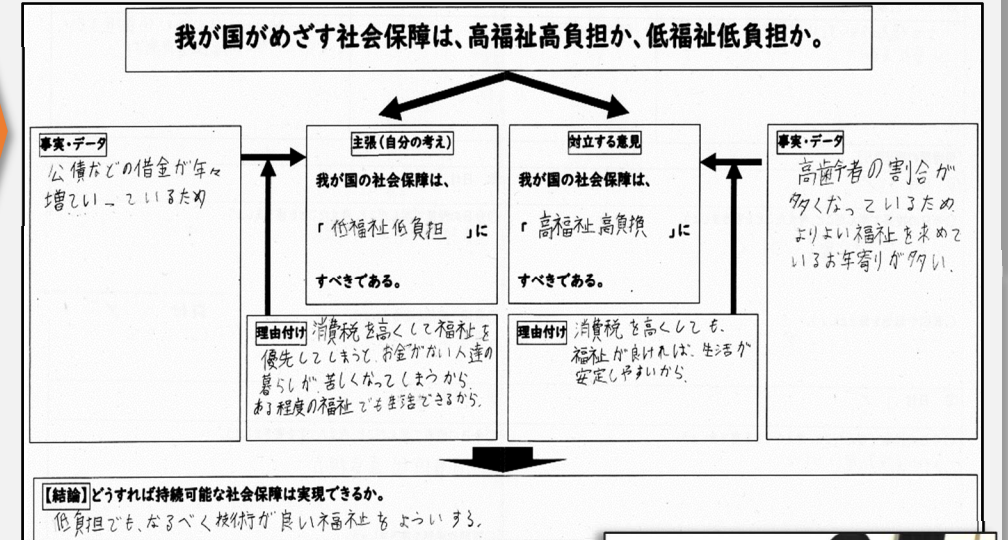
資料から読み取れることについて、グループで確認し、二つの制度のメリット・デメリットを考察

	高福祉高負担	低福祉低負担
メリット	受けられるサービスがとても多い	国民の負担率がとても少ない
デメリット	消費税や国民負担率が高い	受けられるサービスが手薄い

第4時 「論証モデル」を用いて、持続可能な社会保障制度の在り方を構想し、表現する(報告書 pp. 41-42)



前時までの学習内容を生かし、「論証モデル」に記入



■「論証モデル」の利点

主張だけでなく、対立意見についても事実・データと理由付けを行った上で、他者と交流し、結論を導く構造になっています。

